

議会運営委員会視察報告書

平成26年7月18日

1 視察日、視察先、事項

平成26年6月23日（月） 山口県下関市
一般質問における「一問一答方式」について

2 参加委員

大井淳一朗委員長、石田清廉副委員長、河崎平男委員、下瀬俊夫委員、矢田松夫委員

3 報告事項

【視察の目的】

本市議会の一般質問は、議員が壇上から一括して質問した後に執行部が一括して答弁する「一括方式」を導入している。しかし、この方式では一度に複数の項目について行うことになるため傍聴者にとって分かりにくい、時には答弁漏れがあるなどの問題点が指摘されていた。そこで、近隣市で「一問一答方式」を導入している下関市議会の状況について研究するために視察を行った。

【視察先の状況】

- ※ 議員は当初から壇上ではなく質問席から執行部の方を向いて質問をする。
- ※ 質問項目は概ね2つ～5つ。持ち時間は60分。
- ※ 基本的に担当部長が答弁、答弁指名があった場合などは市長が答弁する。
- ※ 市の現状について質問し、問題点の指摘、政策変更を促す形で議論を深めていた。
- ※ 質問と答弁がかみ合っていて、聞いている方もよく分かった。

【考察】

いずれも40分程度の質問時間であったが、それを感じさせないほどに議論が良くかみ合っており充実した内容であった。スムーズかつ無駄がないとの意見がある一方で、スムーズすぎてかえって迫力を感じなかったとの意見もあった。いずれにしても、議員・執行部ともに資質が高いと言える。本市でも9月定例会から「一問一答方式」を導入するが、形式面で終わることなく実質面でも市民の負託に応えうる内容にしていかなくてはならない。